

## 高3・数学

## 学習の基本を重視し、指導の工夫で自ら学ぶ生徒を育成

【学校情報】 東北地区・公立・普通科・1学年240名／おもな進路状況 国公立大155名、うち難関国立大10名

**新たな取り組みに至った背景** 休校の影響はそれほど無く、新たな取り組みは行っていないが、普段の指導で、入学時に家庭学習の習慣がない生徒たちをいかにして主体的に学習に取り組むようにしていくかを、学校として続けている。

## 具体的な取り組み

## ① 1年次から基本を重視した指導を行う

授業の予習と復習、テストには勉強して臨むといった学習の基本を重視している。そのうえで、1年次は、課題の与え方を工夫したり、楽しく勉強に取り組めることを留意している。2年次は1年次にやってきたことを徹底している。

## ② 課題の与え方を工夫している

1年次は、できてほしい課題をいくつか用意し、生徒たちにはその中から「自分のやりたいこと」（先取り学習、伸ばしたいこと、弱点克服など）を選択して取り組ませるようにしている。取り組みは生徒に任せているが、「自分で決めたことはきちんとやろう」としつけて、提出させている。

## ③ 「好きな教科を伸ばせ」と指導している

1年次には、従来行ってきた難関大添削をやめて、ハイレベル添削とし、自分が得意としたい科目に取り組ませるようにした。その結果、添削指導に参加する生徒が増えた。弱点克服に目が行きがちだが、長い目で見れば、勉強しているのがマイナスではない。

## おもな成果

## 休校中も生徒は自分のできることを進めた

休校は3月上旬～5月の連休までで、環境が整っていないこともあり、オンライン指導などはほとんど行えなかった。しかし、1・2年のときから「自分でできることをちゃんとやろう」としてきたので、休校中でも、生徒たちはできることを頑張ったようである。

## 7月模試でしっかり結果が出ていた

基礎学力の定着に関しては、数学・英語を中心に小テストを実施して、きちんとできているかを確認している。また、数学の指導では、問題が解ければよいということではなく、「数学がきちんとわかる」（定理（公式）の証明をはじめ、方針の根拠に至るまで人に説明できるレベルまで理解している）ことを重視しており、7月模試ではその結果が出ていた。

## 今後の指導プラン

記述（模試）の成績は良いが、マーク（共テ模試）が出ていない。ここをどうするか。従来だと数学は記述ができていればマークもできるので記述指導に重点を置き、12月にマーク対策を集中的に行っていた。今年は、12月よりも早い段階から新傾向問題に触れさせて慣れさせながら、同時に記述力も引っ張る方針。